

地域社会への貢献

ブラザーグループ全体でグローバルに一体感を持った社会貢献活動を推進します

ブラザーグループの社会貢献活動は、ブラザーの中長期ビジョン「グローバルビジョン21」達成に向けた経営の実践の一つです。その実践にあたっては、地域社会との双方向のコミュニケーションを通じて、ブラザーへの要請や期待を正しく把握した上で、私たちが果たすべき責任と、事業の成長につながる新たな機会を見だし、その両立を目指して積極的に行動することを大切にして活動しています。



震災復興支援

東日本大震災復興支援の継続

ブラザーグループは、従業員による寄付「絆ファンド」を活用し、東日本大震災復興支援を継続しています。宮城県七ヶ浜町の子どもたちの遊び場「きずな公園」に続き、子どもたちの知の拠点として「きずな図書室」を整備しました。

また、子どもたちが英語でコミュニケーションできることを目指す「グローバル人材育成プログラム」のキックオフとして、社長の小池が講演しました。



熊本への支援活動

熊本地震で大きな被害を受けた熊本県御船町には、移動手段に困っているという現地ニーズに応じて、「絆ファンド」から乗用車を寄贈しました。



環境社会貢献

ブラザーグループは2008年より岐阜県郡上市と提携し、従業員参加の植樹活動を「ブラザーの森 郡上」にて行ってきました。これまでの9年間に5,500本もの植樹を行ってきましたが、植樹したエリアによって木の生育状況にばらつきが発生することがわかってきました。

その問題の原因を明らかにするため、2014年より持続可能な地域づくりのために地域と大学をつなぐ協働の場づくりを行う名古屋大学コンサルティングファームとともに現地調査を進めてきました。その結果、従来この土地には森林だけではなく草地や湿地帯などもあり、必ずしも植樹に適している土地ばかりではないことがわかりました。そこで今後、土壌に合わせた最適な植樹計画をはじめていく予定です。2016年5月には郡上のお祭りとの共催という形で、郡上市長、地元小学生も参加して総勢約300名による植樹を行いました。

ブラザーは、現地のニーズを把握するために定期的に地域住民と協議しながら、「ブラザーの森 郡上」をこれからも地域の方に愛される、生物多様性に富んだ森にしていきたいです。



ゴールデンリングプロジェクト

ブラザーグループでは、従業員参加の社会貢献活動を目指し、2011年からブラザー独自の「ゴールデンリングプロジェクト」に取り組んでいます。2016年度は、世界18の拠点でブラザーグループの従業員とその家族がこのプロジェクトに参加しました。

「ゴールデンリングプロジェクト」に取り組む多くの拠点は、「リレー・フォー・ライフ^{*}」に参加しています。この活動に参加することで、がん患者を励まし勇気づけるとともに、がんへの意識や備えを学びます。集まった寄付金は、がんの新治療や新薬開発、若手医師の奨学金、がん相談、がん検診受診率アップなどの活動に活用されています。

アメリカにある販売拠点は、ニュージャージー州で開催さ

れる「リレー・フォー・ライフ」に1999年より継続して参加しています。がんと闘う患者とその家族を支援するとともにがんで亡くなった家族や知人をしのぶ機会となっています。

日本でも、2010年から本社のある名古屋市近郊で「リレー・フォー・ライフ」が開催され、従業員とその家族が毎年参加しています。2015年からは「リレー・フォー・ライフ」の会場で、参加者の健康への意識向上や病への備えにつながる「サバイバーと語る会」をブラザー独自に開催しています。

今後も、活動の意義や趣旨を理解して「ゴールデンリングプロジェクト」に積極的に参加する従業員の輪をグローバルに広げていきたいと考えています。

※ 参加者が、24時間歩き続けて寄付金を募る、がん患者支援のチャリティーイベントの一つ。いまや世界25カ国で開催されている。



「リレー・フォー・ライフ」など、がん患者支援のチャリティー活動に参加するグループ拠pointsの輪が広がっています。



アメリカ



上海



ドイツ



シンガポール



インドネシア



マレーシア



日本



アラブ首長国連邦



韓国



フランス



南アフリカ



台湾



オーストラリア



ベトナム



香港



タイ



フィリピン



ニュージーランド